

Press Release

CCA市民美術大学 特別講座 対談 秋元雄史 建畠哲 中村信夫

2021年11月27日 土曜日 午後2時

北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 大セミナールーム
(〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11-4)

参加費1000円 要申込 申込締切11月22日(月) 定員80名

昨年からはじめられたコロナの蔓延は、新型のコロナが誕生するなど、今年に入ってさらに世界に拡大して混乱を招きました。国内ではワクチン接種が進み、ようやく日常を取り戻す兆しが見え始めています。その中で私たちの日常は変化しつつあります。パソコンやスマートフォンと向き合う時間が増え、SNSが対話の手段となり、ネット空間で過ごすのが今まで以上に当たり前になりました。

コロナ禍の2年間では美術を巡る状況も変化しました。美術館でもネット空間を使用したプログラムや、バーチャル美術館や配信型の教育プログラムなどの試みが増え、大型企画展から、コレクションの活用という動きも見られました。運営面でも変化が生じ、事前予約制を取る美術館も登場しました。当たり前のようにインターネットから情報を得ていく一方で、情報格差も問題になっています。リアルに美術作品を鑑賞し、美術を体験することの重要性や希少性が再認識され、実物体験への回帰も見られます。展覧会の在り方や来館者への対応がさまざまに変化する中で、美術の在り方も変わってきています。

今回のCCA市民美術大学では、数々の美術館運営や国際美術展を始め、様々なアートプロジェクトを手掛けてきた秋元雄史氏、建畠哲氏を講師に迎え、かつての日常を取り戻す動きの中で、刻々と変化する社会と美術の関係を考えていきます。

講師略歴

秋元 雄史(あきもと ゆうじ) 練馬区立美術館館長/東京藝術大学名誉教授

1955年生まれ。ベネッセコーポレーションに勤務する傍ら、美術館の運営責任者として国吉康雄美術館、ベネッセアートサイト直島の企画、運営に携わった。地中美術館館長、ベネッセアートサイト直島・アーティストティック・ディレクターなどを務めた後、2007年金沢21世紀美術館館長に就任し、以後10年に渡り数多くの現代美術の展覧会やプログラムを展開。また、2015年から今年の春まで東京藝術大学大学美術館館長を務める。18年よりアジア・カルチュラル・カウンシル日本財団理事。

建畠 哲(たてはた あきら) 多摩美術大学学長/埼玉県立近代美術館館長

1947年生まれ。国立国際美術館主任研究官、多摩美術大学教授、国立国際美術館館長、京都市立芸術大学学長などを務め、近現代美術の展覧会を多数企画する。現在は埼玉県立近代美術館館長、多摩美術大学学長。またヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー(1990/1993)、横浜トリエンナーレ・アーティストティック・ディレクター(2001)、あいちトリエンナーレ芸術監督など、多くの国際美術展に携わる。他に全国美術館会議会長、京都芸術センター館長、草間彌生美術館館長など就任。

中村 信夫(なかむら のぶお) 現代美術センターCCA 北九州 ディレクター

1950年生まれ。80年代よりダニエル・ビュレン、マリナ・アブラモヴィッチら国際的に活躍するアーティストを次々と日本に招聘し展覧会を企画、またシドニー・ビエンナーレなど海外のプロジェクトにも参加。外務省の外郭団体である国際交流基金の事業や川崎市民ミュージアム準備室にて開館に携わった後、1997年に現代美術センターCCA北九州を設立、ディレクターに就任。アーティストやキュレーターと数々のプロジェクトを展開し、2001年には日本初の国際展、横浜トリエンナーレのアーティストティック・ディレクターを務める。アジア・カルチュラル・カウンシル日本財団理事。



お問い合わせ/お申込

現代美術センターCCA北九州

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-5 学術研究都市

TEL 093 695 3691 Eメール mail@cca-kitakyushu.org www.cca-kitakyushu.org